



第 8 号

平成20年11月28日

発行

朝日庄内森林環境保全

ふれあいセンター

## 秋の朝日自然塾開催

### 朝日川源流で幻のイワナ探検

9月13日(土)、朝日町の朝日川源流で第6回朝日自然塾が実施されました。



小雨まじりの生憎の天気でしたが、朝日鉱泉吊橋を元気に出発し、主会場となる第2吊橋付近を目指しました。

河原では川のルールや山釣りの仕方、イワナの生態などの話を聞き、餌となる川虫の抜殻などを観察したあとで、いよいよ山釣り開始。各々ポイントを探して糸を垂れました。手慣れた様子の子もいれば、度々講師に餌付けを頼む子もいるなど様々でしたが、皆真剣に目印を見つめていました。



天候のせいも、残念ながら釣果は芳しくありませんでしたが、山釣りの楽しさを感じてもらえたようでした。

イワナを焼いて昼食の予定でしたが、雨が強くなってきたため、簡単にお弁当を済ませて早々に下山することになり、密かに(?)準備したイワナは参加者へのお土産となりました。

今回は、山形県溪流釣り協議会の鈴木さん、長岡さん、石山さんにご協力をいただき、山釣りやイワナの生態などについていろいろなお話を教えて頂きました。



釣りの合間に石立にて挑戦

### 紅葉の葉山で森と歴史をまるごと体験

10月18日、長井市の置賜葉山(1237m)で、紅葉真っ盛り、秋晴れに恵まれ、第7回朝日自然塾が実施されました。

この時季、盆地特有の濃い朝霧の中、元気に黙々と登山を開始。ところどころで、休憩を取りながら、森の話、葉山に伝わる伝説や地名のいわれ等々を聞きました。登る途中、栗やドングリの実を拾ったり、ナラタケ、クリタケ等のキノコも採りました。

やがておけさ堀に到着。勘三郎夫婦の堀掘削伝説とこの山のあちこちにある堀や史跡の話を聞き、昔人の水田開拓の情熱に驚かされました。ここから望んだ置賜盆地の散居集落の風景が目に焼き付きました。

葉山は、朝日連峰の端っこにある山という意味の「端山」が語源で、古来より信仰の山であったと聞き、麓にすむ人々との長い係わりを感じました。

山頂からは、祝瓶山、飯豊連峰、吾妻連峰、奥羽山脈、白鷹山等の展望を堪能し、白兔への下山の途につきました。

今回は、山形県山岳連盟(長井山岳会)の竹田さん、菊池さんにご協力をいただき、コースの案内や、いろいろなお話を教えて頂きました。



葉山奥の院で

植生モニタリング調査を実施

10月5日(日) 昨年に引き続き2回目の植生モニタリング調査を行いました。

今回は、発生稚樹を把握するために昨年設定した4箇所(森林再生ゾーン〔刈払区、対象区〕、自然推移ゾーン〔、〕)の調査プロットに加え、今年6月に植栽したブナ等の稚樹を調査しました。



この調査は、山形大学農学部の高橋教夫教授と学生7名のほか、神室山系の自然を守る会からご協力をいただき実施しました。

調査結果をみると、森林再生ゾーンの発生稚樹は、30cm未満のスギが大半を占め、刈払区で本数が多い傾向がみられますが、昨年と大きな違いはありません。一方、自然推移ゾーンでは、30cm以上に生長した稚樹も比較的多く(5,000本/ha)見られることから、順調な更新が期待できます。

また、植栽木の調査では、全苗の樹種や苗高、状況等を把握しました。調査時点での正常活着は59%、枯死は7%という結果で、57%がウサギの食害を受けているのが特徴的でした。

引き続き状況を見ながら対策を検討する必要があると考えています。今後、森林の再生に向けた取組を継続していきながら、モニタリング調査による検証を進め、より良い取組へと繋げていきたいと思っております。

山形県フォレスター連絡会議現地視察

民国の林業技術者の相互交流を目的とした山形県フォレスター連絡会議が11月18~19日に行われ、二日目に土湯の森の現地視察が行われました。

当日はこの冬初の積雪に見舞われましたが、参加者は雪の中スキー場跡地の自然再生の現場を見て、天然更新などの技術的課題について活発に論議をかわしていました。

ブナ等稚樹の山取と火興し体験を実施

10月25日(土) 雨の合間をぬって、スキー場跡地下部の自然推移ゾーン内から来年植え付けするブナ等の稚樹を山取しました。



今回は戸沢村の神田小学校から参加してくれた親子をはじめ、地元住民や神室山系の自然を守る会から協力をいただきながら、参加者20名で約400本の稚樹をポットへと移植しました。

山取した樹種は、ブナ、ミズナラ、イタヤカエデなど高木性の樹木です。

スキー場跡地下部に位置する自然推移ゾーン内の固い土壌から掘り採ることとなったため、子供たちには少し大変な作業となりました。

途中、ススキの茎に産みつけられたオオカマキリの卵を見つけ、「家に持っていく」と楽しそうに話してくれる子供もいました。「暖かい部屋では、季節をまちがえて数百匹の子供が生まれてしまうので注意してね」と伝えましたが、さてどうしたでしょう？

予定数量を確保した後は、火おこし体験に取り組んでみました。今回は、弓ぎりと舞ぎりを使ってみましたが、煙が出る所まではいくものの、なか



なか火をつけることができません。風がある野外での体験という悪条件ではあったものの汗をかいながら奮闘した結果、ようやく1組が火おこしに成功しました。古代人の苦労を垣間見た体験となりましたが、最後は炭火で作った焼きいもと角川のお



母さん手作り角川弁当(森の恵み秋パージョン)をみんなでおいしくいただきました。



## 朝日山地森林生態系保護地域での取り組み

### 合同巡視員会議開催

9月27日～28日、関東森林管理局との合同巡視員会議が実施されました。初日は三面登山口から平四郎吊橋までの合同巡視、二日目は下越森林管理署村上支署において意見交換等を行いました。

意見交換では、入山者のマナー問題など、日頃の巡視活動で感じている点について意見が交わされました。



雨の三面コースを合同巡視

### 登山道保全修復実証試験に参加

9月20日～23日に、環境省が朝日山地で実施した登山道の保全修復と植生復元手法に関する実証試験に参加しました。これは登山道やその周辺の浸食や裸地の復元手法を検証する目的で、三方境と西朝日岳東側鞍部で実施されたもので、山岳団体等の多くのボランティアが参加して行われました。



裸地に緑化ネットを張り終えて(三方境)

## 庄内海岸林の取り組み

**みどりの保育園** 西荒瀬保育園が年長組を対象に実施している「みどりの保育園」を支援しました。

### 「万里の松原」と庄内海岸林を訪ねて！

9月10日（水）酒田市光ヶ丘の松陵地区で、万里の松原に親しむ会の三沢会長に万里の松原の歴史や保全するための活動などの説明を受けた後、林内を探索しました。園児たちは、松ぼっくりの食痕やミズを発見してはしゃいでいましたが、三沢会長から、森が豊かだと色々な動物や昆虫が住処としていることを教えられ、森林を大切にすることが少し理解できたようでした。

万里の松原探索後は、バスで酒田北港に移動し、緑地展望台から壮大なクロマツ林に守られている庄内海岸の様子を眺め、海岸林の役割と大切さについて理解を深めてくれたようです。



### 鳥海山で野外観察会！

天候不順で雨が心配された10月15日（水）園児達の祈りが天に届いたのか絶好の山行日和となりました。

今回は森林の多様性を知ってもらうため、保育園の周囲に生育しているクロマツ林とは違った森林を探索し、採取した種子を保育園に持ち帰り、プランターで育てて山へ植林する「緑再生里親事業」の一環として、鳥海高原家族休暇村付近の森林で実施しました。

はじめに、「環境省猛禽類保護センター」でイヌワシやクマタカの実物大の縫ぐるみや剥製を見学し、ここに生息する猛禽類の大きさに驚いていました。

次の活動は、野外探索と種子の採取です。講師は白壁洋子さんでした。猛禽類保護センターから休暇村までの遊歩道を歩き、紅葉した木の葉やドングリなどを採取し、海岸林とは違った広葉樹林の生態を学習しました。アケビや秋グミの実を食べたり、キノコやバッタを見つけたりと秋の鳥海山を楽しみました。



### 「緑再生里親事業」で種の蒔付け！

11月17日（月）10月の観察会で拾った色々な木の実をポットに蒔き付ける作業に挑戦しました。

最初にブナ、ミズナラなど、植え付ける木の実について説明を受けてから、準備したポットに土を入れて指で穴を作って種の蒔き付け作業を行いました。園児達は、これまでの活動で顔馴染みになったセンター職員に対し、前回の観察会の感想や自分で拾い集めた種の話をするなど、打ち解けた雰囲気で行っていました。

種まきの後は、色々な種の飛び方について学習しました。イタヤカエデやマツの種のようにクルクル回って風に乗って飛んでいく「種コブター」や「種グライダー」などの説明の後、模型や実物を飛ばしました。旨く飛ぶものや重心がずれてきりもみ状態で落下するものなど、全員が大喜びで一生涯懸命挑戦していました。

最後に、種を食べてみようということでオニクルミ割りに挑戦しました。大部分の園児は、直接殻を割ってクルミを食べるのは初めてということでしたが、金槌で殻を割ってもらい美味しそうに食べていました。

今回、蒔き付けたものは、保育園で管理して3年後に山へ植林する予定です。

## 2008 クリーンアップ・ザ・庄内海岸

宮海国有林で清掃活動を指導

10月4日(土)に山形県鶴岡市から遊佐町までの海岸5会場で、漂着ゴミを対象にした清掃活動「クリーンアップ・ザ・庄内海岸」が行われました。当センターは、昨年に引き続き酒田市宮海国有林周辺を担当し、参加者は、地元自治会、市民団体、地元企業の有志など100名を超えました。

開始早々大粒の雨が落ちるなど荒天になりましたが、参加者は雨にも負けず元気に清掃活動を展開しました。今年は大型の台風の影響が無かったせいか、昨年よりもゴミの量は少ないようでしたが、約1時間のクリーンアップ活動で約1.2tのゴミが回収されました。

今回、昨年を大幅に上回る参加者を動員できたのは、地元企業などを訪問して取組みの必要性を訴えたのも一因かと思われ、今後も地域と一体となって森林環境保全活動を推進するため、さらに地域との対話を心がけていきたいと思えます。



## 森林整備ボランティアを指導

9月から10月にかけて庄内海岸の国有林においてボランティアによる刈払い等の森林整備活動が相次いで実施され、当センターからもリーダー等として参加しました。参加した高校生は「鎌は初めて」と言いながら熱心に作業していました。



9月20日(土)	光ヶ丘(一般)
9月25日(木)	酒田工高(1年全科)
10月7日(火)	酒田北高(全校)
10月8日(水)	遊佐中(3年)
10月30日(木)	酒田工高(環工科1~3年)



## ウエツキブナハムシ大発生

今秋、ウエツキブナハムシの被害が、鶴岡市湯殿山、三足一分山、大鳥川流域、西川町弓張平、大井沢周辺、と朝日山地森林生態系保護地域北部周辺一帯で見られました。

センターではハムシの観察日記をホームページに掲載し1500を超えるアクセスをいただきました。

ナラ枯れと異なり木は枯らさず、3年程度で終息するといわれていますが、今後も注意深く見守っていききたいと思います。



ウエツキブナハムシ(成虫と幼虫)

## 上池・下池、ラムサール条約登録

高館山自然休養林に隣接する上池・下池がラムサール条約登録湿地となりました。マガモ、ヒシクイ、マガン等のガンカモ類を始め多くの渡り鳥の重要な越冬中継地となっているためです。当センターも高館山自然休養林の巡視を強化したいと考えています。



高館山の紅葉をバックに飛ぶコハクチョウ

## 編集後記

なんとか目標の11月中に発行にこぎつけました。ところで、自然塾の記事に登場した石立てですが、ネイチャーゲームとして中々の優れたものです。石工の棟梁が教えてくれました。どんな石でも両手で支えながら重心を探るとグラグラしていた石がスッと落ちて着く位置があるのです。子供たちにも大好評でした。コツは「立つ訳がない」とは思わないこと。んー深い。一度お試しあれ。

## 発行

東北森林管理局  
朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター

〒997-0404

山形県鶴岡市下名川字落合3

TEL: 0235-58-1730 FAX: 0235-58-1731

E-mail: [t\\_syounai\\_f@rinya.maff.go.jp](mailto:t_syounai_f@rinya.maff.go.jp)

Home Page: <http://www.fureai-kokuyurin.jp/>